



大正東日新報 第 世号

明治八年五月六日東京芝西應寺甲

尾張や勝五郎の身をよせり人力車曳の

時次良といふ

高輪辺のり

頃損料

ふとんをか

あがらぬ

さぬ佳役

日々まび

既の高輪へ

ゆられ短気の損料や

時次郎を縄の志をり赤擲

芝將監をー身を投んとせし折もあつ時次郎 巡查の助けられ

其原籍を糾してこれバ甲刃より出たる廿二男次女と多きまびふ

尻の飼士喧嘩の先がら藝妓の宮子を廻りて七を年抄あ女と

云ふがら廿が男の次女と多き男が女と身をうつまあと外お悪いまどがあふ

てもお巡查の店れてゆられまきあれと事あつとと讀うを百六号を出

小原 新報

新報 小原

新報 小原

